

楽器遊びから感じたもの

対象5歳児ふじ組

作成者進藤早苗

作成日2020年12月21(月)

保育のねらい：いろいろな楽器に触れて感じたことや、思いを伝え合い、楽器遊びの楽しさや表現することを楽しむ。



保育の振り返り

12月、園ではいろいろな大きな楽器をだしました。ふじ組では、じっくり遊ぶことを大切に触れる機会、遊ぶ機会を沢山作りました。楽器に触れてみて、扱い方やどういうふうにするかというのにも一緒に考えました。口を出したくなる時もありましたが、自分で気づくのを待ちました。乱暴に扱おうとバチ先が折れたり、楽器が外れたりすることも一緒に経験しました。その時に言葉だけではなく、一緒に考える機会を持つと沢山の気持ちが出てきました。その素直にでてくる言葉を大切に、「じゃあどうしようか？」と投げかけながら楽器遊びを進めていきました。扱い方だけではなく、楽器はどのように力を入れたらどんな音が出るのかも一緒に考えました。音楽会に向けて毎日楽しみながら新しい発見がありました。そのような体験を通して迎えた音楽会当日、おうちの方が見守る中、歌「にじ」、合奏「よろこびのうた」を披露しました。終わった後は、「楽しかったよ」「見てくれて嬉しかった」という言葉が聞こえてきました。音楽会が終わっての登園日、口ずさんでいた曲は「よろこびのうた」。この曲は、お祝いのおうたで、これからの時期お店等でも、聞こえてくる曲だと思うので、音楽会の思い出をまたお話ししていただけることを楽しみにしています。「健康な心と体、豊かな感性と表現、道徳性・規範意識の芽生え、社会生活との関わり、協同性、思考力の芽生え、思考力の芽生え」